

林業の魅力実感 間伐挑戦

伊豆総合高土肥分校生に出前講座



手のこぎりで間伐作業に取り組む生徒ら
=伊豆市の「またね自然学校」付近の市有林

倒木に歓声 課題も理解

伊豆市の伊豆総合高土肥分校1年生13人が6日、同市の「またね自然学校」で林業に関する出前講座を受けた。手のこぎりなどを使い、一日を通して林業への理解を深めた。

林業の仕事や森林管理をテーマに、同学校の斉藤大輔代表(46)から講義を受けた。付近の市有林で斉藤代表ら同学校スタッフがチェーンソーを使った間伐作業を実演。チェーンソーで木の一部を切って「受け口」を作り、次にその逆側の切り口を入れた場所にくさびを打ちこみ「追い口」を作ると、ロープを引っかけて木を引き倒した。

その後、生徒はグループに分かれて手のこぎりで間伐作業を実践。なかなか切れない木に悪戦苦闘しながらも、倒木した瞬間には歓声が上がった。佐藤海帆さん(15)は「林業はいろんな課題を抱えていると知った。間伐はかなり力が必要で、良い体験になった」と振り返った。

ほかにも事前に用意した間伐材で箸作りに挑戦。ナイフやヤスリで間伐材を箸

として使えるほどの細さに削り、焼きこいで思い思いの言葉を刻印した。

出前講座は県と市が主催した。県は2020年度から高校生を対象に林業の魅力

力を伝えるため、各高校で講座を実施している。
(大仁支局・小西龍也)